

日本システムバンク、北陸でカーシェア ENEOSと

2023/11/08 04:01 日本経済新聞電子版 1241文字

北陸を中心に駐車場運営を手がける日本システムバンクはENEOSホールディングス（HD）と組み、乗用車を共同で利用するカーシェアサービスを始めた。まず北陸3県で計10台を備え、観光やビジネスの移動に活用してもらう。個人の車所有が多い北陸でも、カーシェアが少しずつ広まっている。

日本システムバンクは10月、福井、石川、富山の3県にある自社運営の駐車場に計10台のカーシェア用の車両を置いた。2024年3月に北陸新幹線が延伸する福井駅に近い立体駐車場などに計4台、金沢駅、富山駅の近隣にもそれぞれ3台ずつを備えた。

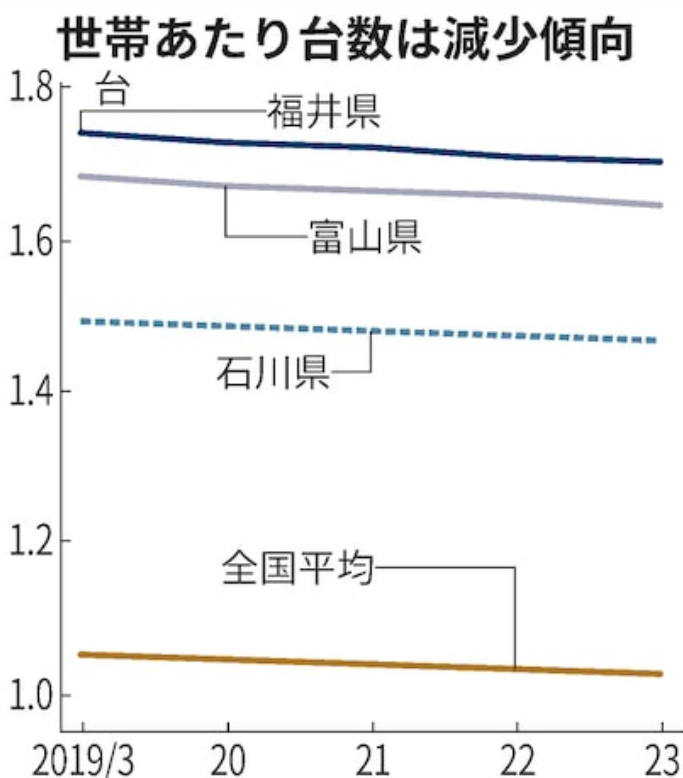
北陸でのカーシェアでは、パーク24グループのタイムズモビリティが先行する。北陸新幹線が金沢まで開業した15年の10月末段階の北陸3県での台数は22台だったが、23年9月末には305台まで増加。ステーション数も11月初め時点で80カ所弱に達する。観光やビジネスの需要を取り込み、事業を拡大してきた。

他にトヨタ自動車系の販売会社などもカーシェアを展開しており、日本システムバンクとENEOSの連合は後発となる。日本システムバンクは自社で運営する駐車場の有効活用が課題で、常時スペースを使うカーシェアは事業効率の面でもいい。ENEOSとの連携は「知名度の点で集客も期待できる」（野坂信嘉社長）という。

ENEOSにとっては、駐車スペースを確保するのに地域の事業者と連携する利点は大きい。横浜銀行の駐車場を活用して車両を設置した例もあり、協業による車両配置の割合は23年度にサービス全体の5割を超える予定だ。ENEOSは「地域に認知された事業者との連携は、顧客獲得にもつながる」とみている。



日本システムバンクはENEOSと連携してカーシェア事業に参入した（富山市内）



(注) 1世帯あたりの自家用車普及台数
(出所)自動車検査登録情報協会

カーシェアの普及は、車とのかかわり方が「所有から利用へ」と変わる象徴だ。北陸は全国の中でも車を所有する志向が強い。自動車検査登録情報協会のデータによると、1世帯あたりの車普及台数は福井県と富山県が1位、2位で続き、石川県も13位と高い。

同協会の担当者は「北陸では雨や雪の多さから自家用車を持つ台数が増えやすいのでは」と分析する。3世代居住で各世代が車を持つといった事例もある。通勤や買い物といった日常の移動をすべて車で賄う人が増え、郊外の商業地が栄えるなど「車社会」が定着していた。

しかし直近では北陸3県も世帯あたりの台数が5年で0.02~0.04台減っており、福井と富山は全国平均の減り幅よりも大きい。福井県内に7台のカーシェア車両を展開する福井ダイハツ（福井市）も「（利用者である）県内在住の学生は、乗車時間が短い一方、利用件数が多い。日常的な活用にもつながっているのでは」とみる。

福井県内では新幹線開業を控えて、バス運転手が不足して二次交通の確保が課題になっており、カーシェアの潜在的な需要は高まっているといえる。観光やビジネス向けを想定したカーシェアの台数が増えれば、市街地のマンションなどに住む人がユーザーになる可能性もある。車社会の北陸も徐々に変化していくかもしれない。

（津兼大輝）

北信越は世帯あたりの車台数が多い		
順位	都道府県	世帯あたり普及台数
1	福井県	1.698
2	富山県	1.64
6	長野県	1.549
10	新潟県	1.513
13	石川県	1.462
	全国平均	1.025
47	東京都	0.416

(注) 2023年3月末時点
(出所) 自動車検査登録情報協会

許諾番号30096178 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.